

製品名: NM23-H2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14752**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	23kDa

抗原情報

遺伝子名	NME2
別名	NME2; NM23B; Nucleoside diphosphate kinase B; NDK B; NDP kinase B; C-myc purine-binding transcription factor PUF; Histidine protein kinase NDKB; nm23-H2
遺伝子 ID	4831/654364
SwissProt ID	P22392
免疫原	抗血清はヒト NM23 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 91-140

背景

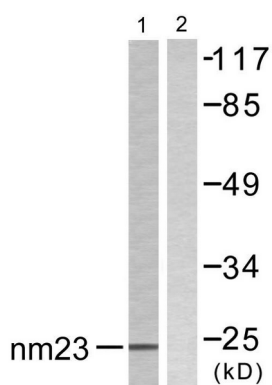
ヌクレオシドニリン酸キナーゼ (NDK) は、'A' (NME1 によってコードされる) および 'B' (この遺伝子によってコードされる) アイ

ソフォームからなるヘキサマーとして存在します。この遺伝子には、複数の選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが見つかっています。隣接する上流遺伝子 (NME1) からのリードスルー転写により、各遺伝子産物と同一の配列からなる融合タンパク質をコードする自然発生的な転写産物 (NME1-NME2) が生成されます。[RefSeq 提供、2010年11月]、触媒活性: ATP + ヌクレオシド二リン酸 = ADP + ヌクレオシド三リン酸。、補因子: マグネシウム。、疾患: このタンパク質は、転移能の高い腫瘍細胞で減少しています。、疾患: このタンパク質は、転移能の高い腫瘍細胞で減少しています。神経芽腫では NME1 の体細胞変異が見られます。神経芽腫における NME1 の増加は、悪性腫瘍に関連する疾患の特徴と相関している。したがって、異なる腫瘍において相反する役割ではないにしても、異なる役割を果たす可能性がある。、酵素調節: His-118 の自己リン酸化は、酵素のセリン / スレオニンプロテインキナーゼ活性を高める。SET 複合体との相互作用は、エキソヌクレアーゼ活性を阻害する。、機能: ATP 以外のヌクレオシド三リン酸の合成において主要な役割を果たす。AKAP13/LBC と相互作用することにより、Rho 活性を負に制御する。c-Myc 遺伝子の転写活性化因子として作用し、DNA に非特異的に結合する (PubMed:8392752)。、機能: ATP 以外のヌクレオシド三リン酸の合成において主要な役割を果たす。ヌクレオシド二リン酸キナーゼ、セリン/スレオニン特異的プロテインキナーゼ、グラニルおよびファルネシルピロリン酸キナーゼ、ヒスチジンプロテインキナーゼ、および 3'-5'エキソヌクレアーゼ活性を有する。細胞増殖、分化、発達、シグナル伝達、G タンパク質共役受容体のエンドサイトーシス、および遺伝子発現に関与する。神経パターン形成や細胞運命決定を含む神経発達に必須である。腫瘍転移抑制能を有する。、PTM:N 末端がブロックされている。、類似性:NDK ファミリーに属する。、細胞内局在:エプスタイン・バーウイルスタンパク質との相互作用、または GzmA による SET 複合体の分解によって誘導される、細胞周期依存性の核局在。、細胞内局在:アイソフォーム 2 は主に細胞質内に存在し、アイソフォーム 1 およびアイソフォーム 2 は核小体から排除される。、サブユニット:2 つの異なる鎖 A および B のヘキサマー (A6、A5B、A4B2、A3B3、A2B4、AB5、B6)。CAPN8 と相互作用する (類似性による)。AKAP13 と相互作用する。、サブユニット:2 つの異なる鎖 A および B のヘキサマー (A6、A5B、A4B2、A3B3、A2B4、AB5、B6)。SET および PRUNE と相互作用する。、組織特異性: アイソフォーム 1 は、心臓、脳、胎盤、肺、肝臓、骨格筋、膵臓、脾臓、胸腺で発現する。肺癌細胞株では発現するが、正常肺組織では発現しない。アイソフォーム 2 は普遍的に発現し、その発現は腫瘍の分化にも関連している。アイソフォーム 3 は普遍的に発現する。、組織特異性: 普遍的に発現する。、

研究分野

プリン代謝;ピリミジン代謝;

画像データ



NM23 抗体を用いた K562 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。